

日 時：令和元年10月3日（木）10：00～

場 所：潮来市役所 3F 第1会議室

## 1 座長あいさつ

最初の1期というのはどうしても手探りだが、第2期ということで、他の自治体の様子も参考にして、これからは、ある意味、実質化していく段階に入る。今度大きく3つくらい論点がある。1つ目は人口フレーム。今日も話があるが、普段の生活の姿をどういうふうを設定していくのか。2つ目はKPI。KPIという言葉を使わせていただいたが指標。プロジェクトがどのように進捗しているのか推し量る。これをどうやるのか。指標をたくさん選ぶことは、ある意味、楽だが、一方で、混乱してくる。減らしていくのかという問題。3つ目は、体制の強化。計画策定したものを実行していく。それは、役所の人たちじゃなくて、今日参加していただいた方又は市民の方に是非参加していただいて、実行していく。そういう体制を更に強化していくということは、大事なこと。ポイントを忘れずに、進めていきたい。

## 2 市長あいさつ

公私ともお忙しい中、総合戦略の会議に出席して頂き、ありがとうございます。また、台風15号で、潮来市も甚大な被害を被った。こういう中で、テレビ報道は千葉県の方がクローズアップされたが、茨城県で一番被害を被ったのは、この鹿行地区が大多数。公共施設はもちろんのこと、家屋、農業、水産業の被害、こういったところに、きめ細かく支援ができるようにすすめていきたい。また、潮来高校の皆さんには、3日も4日も前から、ポートを出していただいたり、総出で協力をいただいている。明日から、4.5.6.7の4日間開催される。皆さんの力を借りながら、何とかいい成績が残せるように、頑張ってもらいたい。すでにトライアスロン、オープンウォータースイミングは終了しているが、頑張っている成績を残してほしい。あと4日間で国体が終了になるので、ご協力をお願いしたい。

さて、座長から話があったように、計画を策定するのが目的ではない。計画に則って、実行に移して、結果を出すということなので、いきなりできないことを計画に入れても、実際には進みません。やはり委員の皆さんに手を貸していただいて、どうしたら、人口減少止めをかけ、又は緩やかにしていくか、どうしたらよいか意見等をうかがい、しっかりとした計画づくりを進め、それを皆さんと共に実行に移していく、それが大切なことだと思っている。忌憚のないご意見を賜り、活発なご意見をお願いしたい。

## 3 委嘱状交付

## 4 議事

### (1) 潮来市まち・ひと・しごと創生総合の効果検証等について

○委員長：ありがとうございます。第1期のまち・ひと・しごと総合戦略に関して、2つですね。まず1つは潮来市が行っている、まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証、縦長の資料。もう1つは、地方創生交付金事業。国からお金をもらって展開しているもの。広域連携が4つ、単独が2つ。この2つは、ある意味連携しているので、1つみたいなもの。細かい話にはなっているが、こういうKPIをつくる意味だとか、忌憚のないご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○N 委員:資料1の真ん中のところ、市内結婚子育て世代の理想とする子どもの数、基準値が2.3人、最終目標値が2.5人というところ。これは、理想の数値ということか。女性の数値というのは、一人だけのお子さまをお持ちの方が、理想は2人とか3人ともとしたら、理想はその逆、ということもありえるのか。

→あくまでも理想。ただ、理想をどのように現実化していくのかというのは、施策事業が大きいかかわってくる。こういうものがあれば、もっと子どもを多く産んでもいいなどいろいろな部分に関わってくると思う。当初意識付けをさせていただいて、KPIという形で理想の数値を定めさせていただいたものと考えている。

○委員長:ご指摘とおり、結果というよりは意識の調査をここで指標化している。

○副座長:基本的な質問で申し訳ないが、資料を見ると、この会議が3回ほどあるが、今日の位置付けとこれからの。要するに、5年で第1期が終わった訳だが、今回は、第2期に向けての第1回の位置付けなのか。

→この地方創生の部分、総合戦略については必ず評価をして、PDCAサイクルを回すためにどのようにしていくのか。まず、今までやったところの総括を今現在させていただいている状況。その後、座長からご説明がありましたが、2番目の策定についての方でと思っていたが、こちらの指標を皆様にご検討いただく。その後、評価をしながら整理をしていくということになる。まず、第1期の総括をして頂く。続いて第2期目について現状を踏まえ、今後こういうふうに、という形で出していただければと思っている。

○座長:私、今仕事している〇〇〇〇市は、1期終わって、地方創生交付金をもらってなったのですが、2期のミッションは交付金をもらうというところで、大分組み替えているが、組み替えをするうえでは、1期の評価が重要になる。

## (2) 第2期潮来市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

○座長:ありがとうございます。多少、分かりにくいところもあるかと思いますが、お聞きいただければと思います。今回は情報共有が目的なので。

○T 委員:前の方に戻ってしまうのですが、意向調査を踏まえてと書かれているが。

→基本的に、皆様のお手元の数字を見まして、0%のものをどうするか。目標がある程度100%達したものに対しては、どういうふうに評価をするのかというのがあると思う。例えば、100%となれば、本当に必要な部分と捉えているのだからもう少し基本目標を上げていく。違う目標がいいのではないかと、という整理の仕方もあると思う。この辺については、まず策定委員会の中で、ある程度、実施課の意向とか、目標を変えられるのかどうか、そういう総合的な観点をもとに案などを検討し、皆様の有識者会議の中で議論していきたいと考えている。

○T 委員:先ほど、N委員の方からご質問があった資料1のところ、数字目標を出さないといけないのは分かるが、潮来市の究極の課題が人口減少対策でなく、住みよいまちづくりになると思うが、その辺が、難しいことだと思う。基本目標で、例えば真ん中の段で若者の希望を実現する環境づくり・地域が支える子育て・健康づくりという目標を、本当に叶えていきたいとは思いますが、これが数値目標になると、数値ということになって、ずれていくように思う。この数値目標が、満足度だったり、意識だったり、充実だったりの数字にも思う。直で、満足度が高くなれば、すぐにこれが高くなるのは、なかなかハードルが高いように思う。そこが気になるところ。あとは、大体分かっているというところだが、画像がないと、ピンとこないところがあって、潮来市の人口の年代別の割合とか、円グラフとかであると、若者がこんなに居つかないのかというイメージされるとその課題をどうするかというふうになると思うので、出して頂けると、目標が達成されているのか、これからのようにしていくのか見えるのではないかと。

→ご指摘はごもっともでして、数値目標につきましても、いろんな考え方があると思う。その辺については、策定委員会で検討を図り、また皆さんの中でいろんな議論をしていくということが基礎なのかなと思う。もう1つ

の人口については、後でご説明させていただくが、まずは現況をお示しさせていただきたい。次回につきましては、人口動向はどうか、また、後で説明しますが、アンケートについてです。中学2年生、高校2年生、結婚して子どもさんがいる方などにアンケートをとる。その中で、若い人がどういうふうな潮来市を望んでいるのか、どういう施策をやっていくのか、次回に、いろいろな角度で整理したものを皆さんのお手元に届けさせていただきたいと思っている。その中で、長い期間おかけて議論するのは難しいと思うので、できれば、策定委員会の中で、ある程度の方向性を整理しながら、分かりやすい状況で資料等を有識者会議へ提出させていただきたい。

- 座長:ご指摘のような基本目標とKPI等の齟齬については毎度あって、どこを見ていくかというのは、難しいところだが、基本目標と施策はある程度高いところを皆さん旨にするが、具体的にはここという感じが。最終的に大事なのは、KPIを見ながら事業の施策を評価する。それを踏まえて全体的に判断するという方向に持っていきたい。KPIだけ上げると、歪んでしまうので、そこは留意しないと。あともう1つ、今日の資料、できている段階でわかりづらいので、もう少し、可視化というか工夫してほしい。意思を感じるような資料にした方がいい。
- C 委員:意思を感じる資料というところで、つくば市は人口が増えている。国の資料の方にも、society5.0のことが書かれているが、つくばってすごい成功事例で、いろんな所から、市長の話を聞きにきている。私も市長の話を聞く機会があったのだが、なぜ人口が増えているかという話で、society5.0 が説明されている。KPIの細かい数字を見るのもいいが、県内の成功事例をもっと探るとか、society5.0 をどういったことなのかを有識者会議で知る機会というのも必要だと思う。もう1つ、細かいところだが、KPIが書かれている資料で、上から2段目、潮来のまちや文化を生かし住んで楽しい街をつくり、の中に定住・移住ポータルサイトのアクセス数が低いというところで、最終目標値が、31年度 100,000 人が見るポータルサイトにするというところが、2013年で達成率が2.4%。前回の創生有識者会議でも言ったと思うが、100,000の根拠というのが、そもそも何だったのかというところが分かっていない。移住定住を真剣に考える人が、移住定住のポータルサイトを見ると同時に潮来市のサイトを見るはずだと思う。そうなった時に、潮来市のホームページの来訪者数がいくつあって、そこから分岐している移住定住のサイトがいくつあるかという、そこが、行政が考えてない100,000なのじゃないか。潮来市のサイトは、100,000アクセスありますか。
  - 潮来市のホームページ、172,163件という数字が平成30年度は示されている。
  - 補足します。今回下がっていると思うが、このKPI作成したときとシステムが変更になっており、今までは延べ人数であったが、現在はアクセスした人に人数でカウントしている。
- C 委員:そのアクセス数を目標にした時に、市がどのような活動をしたかというのが一番大事だと思う。イベントもアクションも何もなかったら、アクセス数は伸びないと思う。そのあたりが、ここだけでは、分からない。
  - ホームページを開設する時も、何もなければ来ないというのがあって、サイトというのは、月に1回程度アクセスしてもらうというのが本来だが、工夫をしていかなければ、増えないと思っている。
- C 委員:ここに関しては、数値だけの見直しだけでなく、取り組みの内容の見直し、書かれているが、必要かなと感じた。

### (3) 人口ビジョンの現状について

- 座長:ありがとうございます。今回のまち・ひと・しごと創生関係では、総合戦略とこの人口ビジョンの2つが組み込まれていくが、ご説明いただきました。皆さんすでにご覧いただいたと思いますので、ご想像をされていると思いますが、こういう状況を踏まえながら、将来に向かって、施策を展開していくということになると

思う。減っていく人口を、下げ止まりになってきているのもありますが、人口が減ってきても本来の生活の質が大事になってくるので、人口だけが、すべての材料では無いが、こちらを踏まえながら、戦略を展開していく。ご質問等、ございますか。

○座長：事務局から現状等の説明がありました。今後事務局からもう少し具体的なものが示されるようですので、この件はこれにて、次に進みたいと思う。

#### (4) アンケート調査票（案）について

○座長：ご説明いただきました。皆さまから、ご意見等あれば、お願いしたい。

○副座長：アンケートの内容だが、歴史と文化についての質問がない。認知度が低いので、ないのか。ブランド力で、茨城県の中でも潮来は笠間とか大洗について、5番目くらいに入ると思うが、そういうことも首都圏の方にアンケートを取ると期待できるのではないか。歴史に関する質問はあるか。

→その件については、昨年策定した総合計画や教育委員会で実施したアンケートなどの方で、歴史や自然、環境等について触れさせていただいているものがある。先ほど話があったように、他の資料で作成しているものは、そちらを使わせていただく。こちらについては、課題になっているものを入れて作成している。

○座長：だとすると、全体のイメージが分かるような資料があると。

○副座長：観光のイメージの中では何があるのか。水郷の風景とか緑とか自然とか、そこに歴史も含まれているのではないか。

→事務局の方で、すでに作成されているものを勘案しながら、進めさせていただきたい。

○C 委員：中学生、高校生のアンケートで質問の4番、利根川はあるが、前川は入らないのか？水辺で育っているので、水辺の暮らしって、下町から大洲まで10町内くらい。利根川よりも中学生、高校生だと前川が。歴史文化の話が出たが、前回のアンケート調査で潮来市潮来に住んでいる人たちがこのままここに住みたいと答えた人が、確か70%近くいたと思う。そのデータの見立ては、そこに地域のお祭りがあって、お祭りが好きで居たいということを考えてと思うが、それが、中学生、高校生にお祭りがあつたというのがないのは、なぜか。郷土工芸品であやめ笠とか中学生、高校生で知らない人が多いと思うが、それを魅力と感ずるよりは、お祭りや郷土芸能を魅力と感ずている人の方が多いのではないか。

→ご指摘について、整理させていただきたい。

○K 委員：生活していくには、かけ離れたような状況の中、今、潮来で国体をやっているが、地区によっては全体の半数以上が、区に入っていないかたりする。そうなると、誰も付き合っていない方もでてくる。前回の会議の時もその話が出たが、それでは結局一回きりで終わってしまつて。○○委員のところのように歴史がある所に住んでいる人はいいが、日の出は新しい方がたくさんいて、大変で、人との付き合い方が難しくなつてきている。

○●●：理事会とか町内会とかあるが、とても大事で、特に今回は台風15号による被害で、うちの区長は町内をぐるっと回っていた。9日の朝に全戸。しかし加入率が5割ちょっとくらいなので、災害があつた場合、区に入っていない方に我々はどのように手助けができるのかという思いがした。これはあとで、防災の専門チームに聞く機会があればいいなと思つている。自治会と防災の関係も大きな課題かなと思つている。

→一般的に防災というのを前面に出すよりは、日常のお祭りだとか地域のイベントに関連付けていくという方が。ただ、今回台風15号ということがあつたので、防災ということ自体が、まちづくりとか、町内会に参加してみようというきっかけづくりになるかもしれない。

○K 委員：地震のときもつながつたが。

→区長さんを中心に防災訓練を実施していただいたところ、区に入っている人、いない人にチラシで防災訓

練を呼びかけていただいたこともあった。区に入っている人、いない人も防災訓練に参加していただいて、炊き出しの訓練や防災の様々な情報をお伝えしながら、そこで加入促進を図った経緯がある。そのような形で市内全域に防犯パトロールなど、防犯意識を高めていこうというような活動を展開しているところである。

○R 委員:水辺の風景を生かしたオープンカフェの実施という項目があるが、この位置は、延方の近辺はベイシアができて大分変わってきている。ベイシアの前の風景はとてもいいので、先ほど前川の話が出たが、延方の方はあまり発展していない。道の駅からあやめ園まで通る話を聞いたが、その辺のところを市はどう開発をするのか。

→総合計画の中で将来的に「日本一の水路」として、道の駅の方から水郷潮来あやめ園までをはじめ、延方南幹線水路や前川などの活用を計画している。

○R 委員:オープンカフェって具体的にはどんなものか。

→当初あやめ園内にカフェ等はどうかということで、前回策定したとき市民会議の方などから意見があり、施策として、挙げさせていただいた。

○A 委員:少し前に戻るが、全体的なところで、資料1の年間観光入れ込み数、いろいろやっている割には、伸びないというか、逆に減少傾向。3年やって来ていて、そうすると、最終目標値の300万人というところはどう考えるのか。一般的な企業だと、1年駄目、2年駄目、3年駄目だともうその事業に対しては、見直しなり、やめるなりという選択をせざるを得ない。この辺りの分析というのは、どのようにされているのか。危機感というのは、感じているのか。

→最初の方に説明させていただきましたが、本市ではPDCAサイクルを回していくということで、毎年度、実施計画を実施している。その中で、3年間の目標値を各課で持って進めている。できなければ、できないなりの理由を明確にするという中で、改善をするという形で、最終的には、事業の見直し等をしている。今ご指摘があったように評価が分かれる部分については、事業を辞めざるを得ない場合もあると思う。しかし、行政にしかできないこともあり、そこについては、今後、庁内はもとより、有識者会議をはじめ、関係機関と連携しながら、事業の見直し、廃止なども含め、対応などを図っていきたいと考えている。

○座長:今のところを含めて、観光に人を呼ぶというのは、かなり行政の高いところ。施策・事業を辞めることもできないし、かといって、上げていって、お金を落としてもらわなければならないという側面もあるし、非常に大事だと思う。かなりネガティブな数字になっているので、ここをどうするか。

→今のお話の中で、インバウンド、観光の部分、今年度、産業観光課で観光振興計画を計画中である。具体的にはどういう詳細かは把握していないが、そこで少し、現状を踏まえて策定されるものと期待している。

○O 委員:人口を増やすのが基本だと思いますが、それには、都市計画法・農地法が非常に厄介で、稲敷市や行方市は線引きがありません。ところが潮来、鹿嶋あたりは調整区域によって、家を建てられない。家を建てるなという法律があって、人口を増やすというのは、どういう方程式なのかかわからないが、その為に区域指定という制度を導入して頂いた。県の方では、潮来牛堀地区中堀という旧鶏舎があるために、行方全部が区域指定に入れない。1つが駄目だから、全部駄目だ。市街化区域でも生活道路のところ、上下水道が入っていない。市民から要望したら、3軒以上まとまって要望があればやりますという返事が返ってくるが、そうではなく、行政側で、計画を立てて、潮来市は調整区域を全廃したらどうか。そうすれば、家も建てやすくなる。ライフラインの整備も行政に率先して取り組んでもらいたい。

→なかなか難しい問題でございます。すぐにここでお答えすることは難しいが、ただ今のご意見として承りたい。

○K 委員:人口減少を食い止めるという国家プロジェクト。いろいろな施策の中で、達成率がこんなに高いのに、実感がこんなにないのか、というのがほとんどの意見だと思う。お金が無いからそれほど大きな計画はできない。達成していて、効果がないものを進めるよりは、達成が難しいことに力を入れた方が、市民の充

実度や満足度は上がるのではないか。それから、アンケートで、中学2年生に配布されるが、授業中にやるのか。

→指標については、これからいろいろな角度で見直し検討を図り、新たな視点を踏まえて、作成させていただければと思う。アンケートについては、先日行われた市内の小中学校の校長会で説明し、学校でやって頂けることになっている。授業中かどうかは把握できていないが、学校に取りまとめを依頼する予定である。

○K 委員:中学生でこの内容で全部効果があるに○つけて。意味のないアンケート調査になってしまうと思うので、それで、効果がある数字が上がってしまったら、何の調査にもならないと思うので、内容を考えて、数を絞って頂いた方がいいかと思う。中学生と高校生は全然違うので、分けた方がいいのではないか。

→検討させていただきたい。

○座長:達成率の定義があいまいで、実感がわからない。

○S 委員:不法投棄のごみがあちこちにあるが、やはりクリーンな職場ということがあるので、年に2回大掃除をするが、もう少しごみの対策をして、きれいなまちにさせていただきたい。

○H 委員:人口をどうやって増やしていくかというのがあるが、金融公庫でもUIJターンの支援をしていて、計画をやっていたが、今は交流・関係人口にシフトし始めている。移住となると、ハードルが上がるが、サイクリングなどで、交流人口はかなり増加していると思う。東京からの観光を増やして、成田空港からも近いので、インバウンドなども定着をさせていただければ。

○U 委員:首都圏居住者のアンケート調査が、調査意向が潮来市のイメージとか、目的が薄いかなと思う。今のお話のように、移住にアピールなのか交流人口とか観光かというところで、内容もそうだし、どうやって300人を抽出するのかというところもどうなのか。あと、KPIの話。今日は第1期がこういうのを設定して、こうなりました。という結果の報告なので、仕方ないと思うが、2期に向けてのKPI策定に向かっては、原案は、潮来市になってくると思うが、潮来市だけでなく、他の市の策定とかやっているが、KPIといった時に、失礼な言い方だが、市役所とかそういう部署は、ちゃんとやることやっていますよという指標を出すと思う。そうではなく、こういう場合は、事業をやった時に市民の生活とか、地域や社会の仕組みにインパクト与えているかということの評価すべきだと思うが、拝見すると、市としては、やることはやっています。というところもある。その辺を、2期のKPIを作成する時に見ていただきたい。例えば、交流会の実施回数というのは、市として企画してやりました。という、それだけのことであって、そこに出た人がどれくらい満足したか、何か得られて、こういうことに役立ちました、みたいな。そこを把握するのは、難しいが、そこにお金かけて、指標をとってもいいのではないか、と思う。

→ご指摘を踏まえ、目標指標をはじめKIPなどの検討を行いたい。

## 5 その他

→アンケートの修正等がある場合には、10月10日までに事務局へ連絡を願いたい。